

## 第4回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和3年12月23日（木）午後1時30分～4時
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室5・6
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、渡邊委員、林委員、山崎委員、川口委員、島田委員  
関係者：UMECO指定管理者 露木センター長、椎野副センター長、桂氏  
事務局：岩田課長、森係長、岡崎主査
- 4 欠席者：山下委員
- 5 資料：
  - ・次第
  - ・資料1-1 多様な主体間の連携促進にあたっての課題等
  - ・資料1-2 協働事業のガイドライン更新に係るポイントの整理（市民活動団体同士の連携）
  - ・資料1-3 協働事業のガイドライン更新に係るポイントの整理（市民活動団体と地域の連携）
  - ・資料1-4 補助金制度等による協働の推進について
  - ・資料1-5 諮問事項に係る先進事例の視察について
  - ・資料2-1 令和4年度小田原市市民活動応援補助金第一次審査実施要領（案）
  - ・資料2-2 令和4年度小田原市市民活動応援補助金第一次審査採点表（案）
  - ・資料2-3 令和4年度小田原市市民活動応援補助金第二次審査実施要領（案）
  - ・資料2-4 令和4年度小田原市市民活動応援補助金第二次審査採点表（案）
  - ・資料3 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

## 6 会議内容

### ■ 開会

### ■ 議題（1）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」

委員長：それでは、議題（1）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本日は、おだわら市民交流センターの指定管理者にお越しいただいている。それでは、事務局から①多様な主体間の連携促進にあたっての課題等について、ご説明をお願いしたい。

（事務局 資料1-1に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

指定管理者：補足だが、学生のボランティアグループと、彼らに関心のある近隣の高校をコーディネートしている。高校のニーズを把握し、コーディネートした形である。この高校からは別団体との連携についても提案があり、またUMECOの方でも近隣の大学や、以前の交流事業の参加者である事業者等にも輪を広げようとしており、今後の更なる発展が見込まれる。UMECOが窓口となり、一つのつながりから次々と連携を発展させていき、多くのニーズを把握してまいりたい。

現在は市民活動応援補助金交付対象事業の視察を行っており、今後はHello!UMECOを更新することと併せ、「活動内容を知る」「ニーズを把握する」「情報を周知する」という3つのキーワードを意識しながら団体を支援してまいりたい。

委員：地域の現場へは、周知面ではまだ行き届いていないように感じる。

委員長：本委員会では今後、諮問事項に対し答申することになる。資料からも周知することの重要性が明らかであるが、いかに分かりやすく、アクセスしやすくするかというのは大きなポイントであり、重点的な議論が必要と考えられる。

委員：事業の周知について、現状ではどのように行っているのか。

指定管理者：例えば相談窓口についてであれば、UMECOだよりやホームページ等で周知するとともに、今後は館内に目立つ表示をして来館者に示したり、来館しない方向けには折り込みで案内したりといったことも検討したい。

委員長：現状の改善点についても議論する必要があるだろう。

- 委員：コーディネートの相談を受ける以外に、こちらから特定の団体に働きかけるケースもあるのか。
- 指定管理者：幅広くカバーすることは難しいため、相談を受けた際に対応することが多い。
- 委員長：UMECOの中間支援機能には相談・支援機能と交流・コーディネート機能が含まれており、積極的に対応いただいているところである。
- 委員：団体からの要望はUMECOに届いていると思うが、地域からの要望はどの所管が把握しているのか。地域の課題を認識しているのは特に後者だと考えられるので、そうしたところからの相談に応えられると良い。
- 指定管理者：今のところは地域からの相談は少ない。UMECOでは「地域とのネットワーク事業」等で市民活動団体と地域の連携促進を目指している。行政から地域課題に係る情報提供を受けているので、そういったものも参考にこちらからアクションを起こしたい。
- 委員：地域に対する中間支援組織の認知度が低いと思われるので、こちらから出向き、UMECOが専門集団である市民活動団体を紹介できることをPRできると良い。
- 指定管理者：コロナ禍で中断していた部分はあるが、単位自治会や地域コミュニティ組織の会合に出席し、PRしている。また、UMECOの新春交流会に連合会長をお呼びしていたこともある。
- 委員長：UMECOの開設前、市民活動サポートセンターにおいても地域にPRしていたと記憶している。過去の市民活動推進委員会でも、市民活動団体と地域との連携について検討するたびにPRの重要性を指摘しており、今回もより効果の高い方策を探っていきたい。続いて、②協働事業のガイドライン更新に係るポイントの整理について、事務局からご説明をお願いしたい。  
(事務局 資料 1-2、1-3 に基づいて説明)
- 委員長：ただいまの説明で、まずは全体的なことについて、何か意見はあるか。  
本資料はポイントの整理ということで、これをもとにガイドラインを更新するということである。その際、言葉のわかりやすさの面では相当の工夫が必要と考えられる。また、現時点では細かく項目分けされているが、統合、各章への分割といった構成の見直しを行うとともに、「明確化」や「決定の手続き」など、そのまま使用すると敷居が高い印象を与える用語は避けた方が良いでしょう。
- 委員：どちらの連携にも言えることだが、スピード感が求められるケースも多いと思われるので、ガイドラインとしては市民目線で分かりやすいものを目指すべきである。
- 委員長：大枠の流れはフローチャート等で分かりやすく表示し、詳細は各項目を確認するよう誘導することも考えられる。
- 委員：従前のガイドラインはほとんど文章で構成されている。更新にあたっては、パワーポイントをつくっていくようなイメージで、キーワードや関連性等を目で見て分かるように表示し、それをベースに肉付けしていくのが良いのではないかと。早い段階からそういったイメージのページ構成を検討すべきである。
- 委員：コラムについては、できるだけ小田原市内の事例を用いるべきであるので、UMECOと協力して事例を発掘していただきたい。
- 委員長：貴重なご意見である。委員の皆様からも、参考となる事例があれば事務局に情報提供いただきたい。  
続いて、具体的な内容について、何か意見はあるか。
- 委員：いかに手に取っていただきやすくするという観点では、「協働が必要な背景」と「協働のメリット」は統合し、受け手側の目線で記載すると良いのではないかと。「こういう困りごと、協働で改善されるかもしれない」「協働は自分たちにとってこんな良いことがある」というような形である。シンプルにまとめる方が届きやすい。
- 委員長：実際に活動している側からすると、背景よりもメリットが重視されるだろう。本日はまだポイントの整理の段階であるが、実際に文案を作成する段階では、ただいまのご意見も考慮の上、進める必要がある。  
また、例えば協働相手を探す方法としてHello!UMECOや交流会を案内するのであれば、それらの写真を載せる等、文字以外で見せる方法も考えられる。

- 委員：他市では図解や写真、事例入りの読みやすいガイドラインもあるが、小田原市でもそのようなものを目指したいということで良いか。
- 事務局：できるだけ読みやすいものを目指したいと考えており、本日の資料はその前段のポイントの整理という位置づけである。
- 委員長：理想ではあるが、デザイン面でも民間と協働で冊子をつくることができると良い。
- 委員：地域が市民活動団体を探す場合について、相談内容によって窓口等が変わってくるとは思うが、探し方を全て並列で記載すると逆にどこから探せばよいのか分からなくなる恐れがあるため、「まずはUMECOに相談」のように一本化した方が良いか。
- 委員：例えば、地域の福祉に係る相談は社会福祉協議会の方が専門的に対応できるということはあるだろう。ただ、福祉の分野においても市民活動団体との連携で活動の幅が広がるということは考えられるので、相談先はケースバイケースとなる。窓口を一本化すると負担が集中するということもあり、難しい部分だろう。
- 委員：中間支援組織が全てを網羅するというのは現実的ではない。普段、困りごとを相談する先、例えば行政が内容に応じて振り分けた方が良いケースもあるだろう。
- 委員：多様な主体の連携ということだと、ガイドラインにおいてはまずは中間支援組織であるUMECOを相談窓口として案内し、UMECOが各専門の窓口につなぐというのが良いと思われる。記載する時に、ただ列記するのではなく、他の選択肢と温度差のようなものをつけられると良い。
- 指定管理者：現状でも、相談対応時により専門的な窓口案内にはあるもので、まずはUMECOに相談するように記載いただいて差し支えない。
- 委員：福祉まるごと相談のように、UMECOが窓口となってくれることを地域に周知できるよう、例えば民生委員に重点的に案内するなどできると良い。自治会長からUMECOの話が出てくることはあまりない印象であり、本当に実務的なことを行う人に情報が届くようにする必要がある。
- 委員：地域の方は役員の交代等、入れ替わりもあり、一度のPRでは不十分である。認知されるまで粘り強く働きかけを繰り返すしかないだろう。地域向けにPRしたい情報に絞ったチラシを、継続的に配布するというのも考えられる。社会福祉協議会の情報は回覧で回ってくることもあるが、UMECOのことは見かけない。目にする機会をいかに増やすかも重要である。
- 指定管理者：周知が大前提であるので、重点的に取り組んでまいりたい。
- 委員長：協働相手の探し方という点では、UMECOに相談すれば解決の糸口が見つかることを前面に出した上で、そのほかの専門的な窓口についても補足するような、比重を意識した表記が望ましい。そのためにも、UMECOの知名度を上げる必要があるだろう。会議の時間には限りがあるため、本日いただいた以外の意見については、後日事務局にお寄せいただき、反映させていくこととする。
- 続いて、③補助金制度等による協働の推進について、事務局からご説明をお願いしたい。  
(事務局 資料 1-4 に基づいて説明)
- 委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。本日は、見直しの方向性や検討のスケジュールについて、ということである。  
(意見なし)
- 委員長：それでは、案のとおり進めることとし、次回以降詳細な制度設計等の検討に着手することとする。
- 続いて、④先進事例の視察について、事務局からご説明をお願いしたい。  
(事務局 資料 1-5 に基づいて説明)
- 委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。事務局としては、4市の中で優先順位はあるのか。また、重視している調査事項は何か。
- 事務局：仙台市の取組みは特に先進的であり、委員会における検討に大きく資するのではないかと考えているが、その他もそれぞれ見るべきところがあるので、事務局として特段の優先順位はない。また、重視している調査事項としては、諮問事項としてご検討いただいている協働事業のガイドライン更新と、補助金等制度の見直しである。なお、前者につ

いては今後若者の参画等についても検討する必要があるので、ある程度幅広い支援策を調査してまいりたい。

委員 長：そうすると、基本は市役所の所管課を訪問することになると思うが、可能であればUMECOのような中間支援組織についても重要であるので、視察できると良いだろう。立地、運営形態、実施事業、運営者の意見等を含め、調査をお願いしたい。

委員 員：ホームページ等では分からないような、うまくいっていない部分についても調査できると、より参考になると考えられる。

委員 長：視察の時期はいつ頃か。

事務局：今後の調整だが、1月下旬から2月上旬を予定している。

#### ■ 議題（2）市民活動応援補助金交付事業の審査方法について

委員 長：次に、議題（2）市民活動応援補助金交付事業の審査方法について事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 2-1～2-4 に基づいて説明）

委員 長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員 員：予算上の制約はあるのか。また、過去の審査結果を参考にするものなのか。

事務局：令和4年度の予算については市議会3月定例会で上程することになっているので、現時点では未確定であるが、令和3年度の予算額は200万円であった。最終的な交付決定は予算額が上限となるが、まずは上限に関わらず審査していただきたい。

委員 長：仮に予算額が申請総額以上であった場合でも、委員会として補助金を交付すべき水準の事業かを判断する必要がある。また、審査実施要領のとおり、選考の視点に基づき評価・選考を行うが、これは各委員の知見に基づき判断いただくものである。

#### ■ 議題（3）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

委員 長：次に、議題（3）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 3 に基づいて説明）

委員 長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員 員：会場参加とオンライン参加の選択制は継続するということだが、一方で発表者は会場参加に限定している。

委員 長：一般参加者は選択制、発表者は原則として会場参加、ということか。

事務局：そのとおりである。前回の反省として、音声等が途切れてしまうという問題があったため、改善は試みるものの、発表者とその受け手の委員の皆様については、スムーズな進行のため原則として会場参加をお願いしたいと考えている。

委員 員：周知方法については、どのようなものを想定しているか。

事務局：詳細は今後検討したいが、一般市民、特に若い人に見ていただけるよう、市のメールマガジンやSNSを活用できればと考えている。UMECOでもFacebookを開設しているので、協力をお願いしたい。そのほか、基本ではあるが早めにチラシを配架するなど、計画的に進めてまいりたい。

委員 員：イベントがあることを周知しても足を運んでもらえないと思うので、参加によるメリットを明確にすべきである。若い人、学生向けであれば、「これからの活動のポイントが分かる」「つながりができる」のようなPRも良いかもしれない。特に来てほしいターゲット層を絞り、それによりどういったメリットを強調するかを検討する必要がある。

委員 長：市民活動応援補助金や提案型協働事業への応募を検討している団体にとっては貴重な機会であるはずだが、実際には参加がない状況である。そういった団体向けの周知も重要であろう。

委員 員：活動資金の相談があった際には、こうしたイベントを活用いただくよう呼びかける必要がある。

また、発表者は地域課題の解決に貢献できる団体が多いと考えられるので、地域の方にも参加いただけるよう、周知できると良い。周知にあたっては、市からのいわゆるお墨

付きを得ている団体が発表することをPRするなど、案内の仕方を工夫する必要があるだろう。

委員長：本日の意見を踏まえ、メリハリをつけた周知を検討することとする。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

※次のとおり、会議日程の調整・確認を行った。

第5回委員会・・・令和4年2月14日（月）午前 UMECO

第6回委員会・・・令和4年3月13日（日）終日 UMECO

第8回委員会・・・令和4年7月3日（日）午後 UMECO

■ 閉会